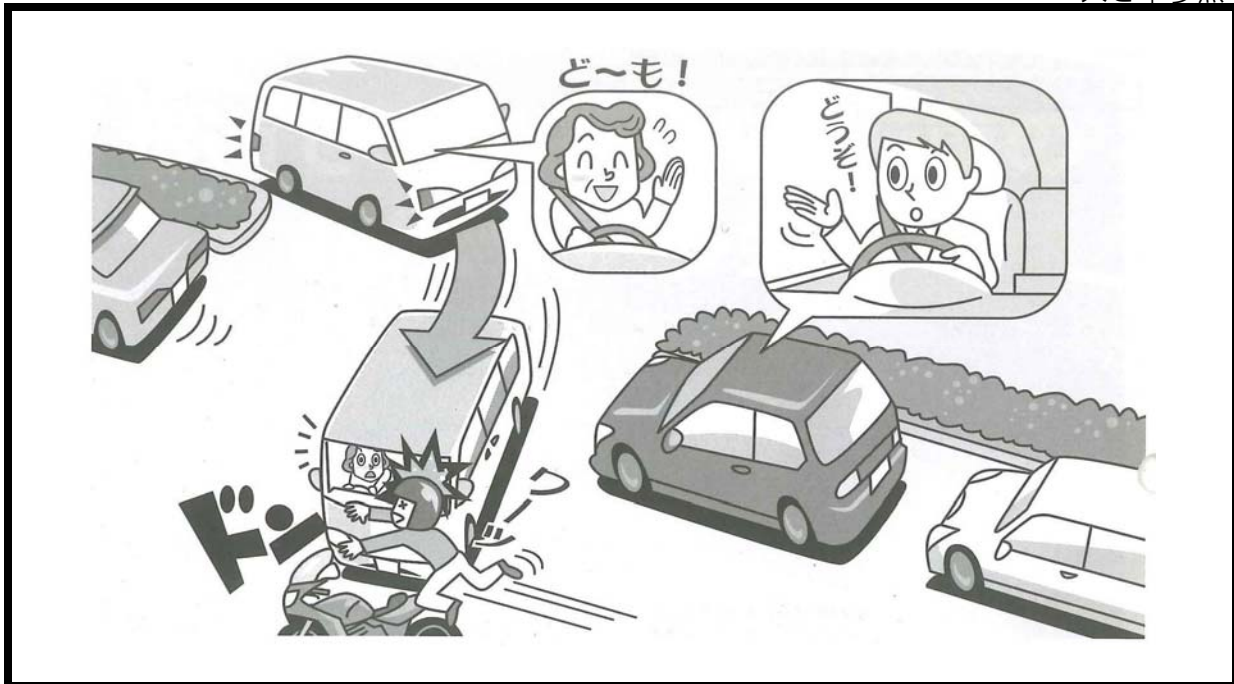


■事故の概況

人と車参照



事故類型：右直

発生日時：朝の通勤時間帯

当事者A：普通乗用車 50歳代 女性

当事者B：自動二輪車 20歳代 男性

■ 事故の概要

Aは片側二車線の中央分離帯のある幹線道路を走行しています。この車線には先行車も後続車もいません。対向の第二車線は渋滞していて車はノロノロ走行しています。Aは反対車線側の駐車場に向かう為、中央分離帯の切れたところで方向指示器を点滅させながら一旦停止しました。

対向車線の車はA車を見ると停車して、右手をあげて「行け、行け」と合図を送ってきたのでAは左手をあげて合図を送ってから右折を開始しました。対向車線の第一車線にさしかかった時、直進してきたBと衝突しました。

一方、Bは通勤で毎日利用している道路で、中央分離帯の切れている地点は注意ポイントだと認識しています。いつものようにスピードを落として走行していましたが、A車が突然車の陰から出てきたので、回避するまもなく衝突しました。

■ 事故から学ぶ

Aが対向車が来るか来ないかを確認せずに右折を続けたのが原因です。道を譲ってくれたので、一気に右折して駐車場へ入場しようとしてしまいました。道を譲った車は「停止してAを行かせようと思っただけ」であって、第一車線の安全を保証したわけではありません。

止まってくれた車の前を右折するときには「早く行かなくては」と考え、安全確認を怠ってしまいがちですが、何よりも自分で安全確認することが最優先です。

最終的に進行して良いと判断するのは運転している本人です。